

ボラみ隊が行く!

ボラ体験レポート編

ボラみ隊とは…
『ボラみ』に掲載された団体に足を運んでボランティア活動を体験したり、ボランティア活動をしている人たちと交流する、「ボランティアしてみたい」「見てみたい」という人たちの集まりです。



REPORT

認定NPO法人 アイキャン

フィリピンの子どもの生活向上を目指すボランティア

フィリピンやイエメンで、子どもたちが貧困に苦しむことのない平和な社会を目指し活動している、認定NPO法人アイキャンの活動に参加してきました。

路上生活を余儀なくされているフィリピンの子どもの家族の生活の厳しさ、家庭崩壊、育児放棄や家庭内暴力。今現在、約25万人のフィリピンの子どもたちが、これらの理由から逃れ、生き延びるために路上で生きることを選択しています。路上で生活する子どもたちは、病気や栄養不良、教育の機会不足、暴力や差別など、多くの問題を抱えています。今回は、アイキャンが行っている名古屋栄の街頭募金活動のボランティアに参加しました。この活動は、子どもの一時保護施設であるドロップインセンターや、児童養護施設である子どもの家を運営するための資金を集めることを目的としています。そして、アイキャンはこの施設の提供を通して、フィリピンの路上の子どもたちが衣食住を満ち、安心して子どもらしい生活を送ることができるようになり、平和な社会が実現することを目指しています。

通行人の心に呼び掛ける

ボランティア当日、アイキャンの事務局に集合し、一緒に募金活動を行うボランティアの方との顔合わせです。呼び掛けるセリフを確認し、役割分担を決め、活動場所の名

古屋栄へ移動しました。到着後、活動開始前のあいさつを行い、募金活動が始まりました。約1時間30分の短い活動時間でしたが、大きな声を出し、通行人の方々に募金へのご協力を呼び掛けました。

フィリピンの子どもの現状を通行人の方に伝えましたが、分かりやすく伝えられたかは分かりません。しかし、小さい子どもからお年寄りまで、幅広い世代の方が募金をしてくださいました。中には、「暑い中ご苦労様。頑張ってるね」と温かい声を掛けてくださる方もおり、うれしい気持ちで満たされました。

募金活動終了後、アイキャンの事務局にて今回の募金活動に関するシェアリングを行いました。私たちと同年代の若者の募金が少なく、小さな子どもやお年寄りの募金が多かったなど、募金して下さった方についての意見が出ました。その一方で、もう少し工夫して通行人に関心を持ってもらえる声掛けを行えなかったか、声掛けの統一感があまりなかったなど、募金活動を行う側の改善点も多く出ました。これらを踏まえ、募金をしていただくために私たちができる工夫はまだあると感じました。

アイキャンすること

今回初めて募金活動を行う立場を経験しましたが、人に伝えることの難しさを実感しました。しかし、難しいという理由で伝えることを諦めてはいけません。フィリピンの子どもの生活は、私たちが当たり前のように生活している今も、常に危険と隣り合わせの路上生活をしています。今回の募金活動のボランティアを最後にせず、アイキャンが目的としている、できることを実践する人(=アイキャン人)であり続けることが大切だと考えています。そして、活動を続けることにより少しでも多くの方に関心を抱いてもらいたいと思います。みなさんも、アイキャンの人になりませんか。



認定NPO法人 アイキャン
 名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階
 TEL/FAX:052-253-7299
 E-mail:info@ican.or.jp URL:http://www.ican.or.jp
 フェイスブック:https://www.facebook.com/ICAN.NGO

ボラみ隊 大久保 雄登
 名古屋で一人暮らしをしている大学生です。今回は久々のボランティアでした。

GO!GO! ボランティア 第23回 大野恵さんが行く!

仕事の経験をボランティアで活かしたい



ピースあいち 大野 恵さんより

ボランティアを始めて、いろんな年代の方との交流が増えました。知らなかった戦争の歴史など難しい話もしますが、ときには優しく、子育ての相談にのってもらったりしています。「ピースあいち」のボランティアさんは元気な方ばかりなので、負けないように頑張りたいです。

ある日の大野 恵さん的一天

- 11:00 受付に座る
- 12:00 昼食
- 13:00 展示室で監視員
自分も展示を見て勉強
- 14:00 退館

私は現在、「戦争と平和の資料館 ピースあいち」で、チラシ制作などの広報活動を担当しています。

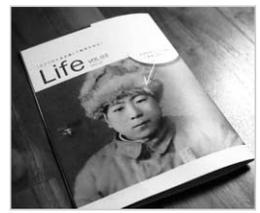
二十歳でデザイン事務所に就職し、約8年間、デザイナーとして働いてきました。当時から考えていたのは、デザインの技術を商業用だけでなく、何か別のことに活かしたい...という漠然とした夢。幼少期からなぜか戦争を題材にした絵本や映画に興味があり、不思議とつも頭の片隅にあった戦争の残酷さや悲しさ。それらを何らかの形で、自分も伝えていきたいという気持ち。

そんな夢や気持ちが動いて、退職後はフリーのデザイナーとして仕事をしつつ、自分の興味がある「ピースあいち」でボランティアもやってみることにしました。幸いにも、ボランティアを始めてすぐに、企画展のチラシなどの制作を任せてもらえることになり、仕事とは違ったやりがいを感じました。自分が興味のあることを題材にしたチラシ制作なので、熱も入ります。チラシの制作を通して、企画展の内容を勉強することもできます。

2015年に出産し、その後はボランティア当番(館内で受付など)として出られる日は

減ってしまいましたが、自宅でチラシを制作するなどして関わりを続けています。時々、ピースへ行くと、本当にアットホームな空気が流れており、みんなで雑談したりもします。最近ではピース内に「次世代交流チーム(若手中心のチーム)」が結成され、20代や30代の仲間との会話も楽しいです。

また、戦後70年を迎えた2015年から、自主制作でフリーペーパーの発行も始めました。



内容は、毎月一人の戦争体験者に登場していただき、今日までの人生を語っていただく、というものです。「戦争体験」の部分だけではなく、戦前や戦後をどのように生きてこられたかをお聞きすることで、「戦争」が一人ひとりの人生にどのように関わっていったのかを記録に残したいです。発行部数は少ないですが、少しずつ置いてもらえる場所も増えました。ぜひ、戦争なんて関係ないと思っているような若者に読んでもらいたいと思います。

このフリーペーパーのアイディアは会社に勤めていた頃から、ずっと考えていたものでした。ただ、当時は誰にインタビューして良いか分からず、悶々としていました。その後「ピースあいち」と出会い、戦争体験者を紹介してもらうことができたので、前に進めました。2018年現在、まだ3号までしか発行できていませんが、今秋、4号を発行予定です。

「ピースあいち」との出会いは退職後の自分を大きく変えてくれました。これからも、今の自分ができることをできる範囲で、ではありますが、ボランティア活動を長く続けられたら良いなと思っています。

